

Partner

[パートナー]

Vol.07
2022.NOV

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —

・救急科・

貝塚 博行

救急車応需を継続し、さらなる
救急医療体制の
整備を目指す

・消化器内科・

細谷 寿久

切開せずに胃がんを摘出する
内視鏡的
粘膜下層剥離術



KOYAMA MEMORIAL HOSPITAL

紹介患者様の受診方法について

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しています。地域医療連携室では、他の医療機関からの紹介患者様の対応、または患者様のお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。

当院は、外来患者様が多く、待ち時間が長くなるため、紹介状持参患者様については、特に事前予約をお勧めしています。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、
地域医療連携室にて事前予約をお取りします。

「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を
事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》
TEL.0299-85-1133 FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、
翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

紹介状持参患者様 予約取得フロー

- 1 医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～16:00
	土曜日	9:00～11:00

TEL.0299-85-1133 (地域医療連携室直通)
- 2 受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。
FAX.0299-88-2211 (地域医療連携室直通)
※ FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。
- 3 ・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡いたします。
・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。
(できる限り15分以内にご連絡します)
※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。
- 4 予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、
11番「紹介状窓口」にご来院していただきますよう、
ご案内をお願いいたします。

緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。

- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
- ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
- ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土/8:00～20:00迄) 日・祝を除く
- ・放射線科 0299-85-1173 (画像検査科直通)*
- ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)**

*月～金/9:00～16:00、土/9:00～11:00 日・祝を除く

各科緊急連絡先

広報誌 Partner Vol.07

発行日/2022年11月1日 発行/医療法人社団善仁会小山記念病院
〒314-0030 茨城県鹿嶋市厨5-1-2 TEL 0299-85-1111 (代表) <http://www.koyama-mh.or.jp/>



・救急科・

貝塚 博行

日本外科学会外科専門医
日本救急医学会救急科専門医
(2023年1月～)

救急疾患の紹介・相談を お待ちしております

2022年4月、小山記念病院救急科に赴任しました貝塚博行と申します。

鹿行地域における医師不足は顕著であり、専門外来や救急外来における医療従事者の負担は大きいものと考えます。また、地域住民にとっても医師不足は大きな不安として根強くあるものと認識しています。

私は小山記念病院の救急外来を主に担当し、特に入院を要する患者さんに対しては数多くある専門診療科と相談し方針を決定していきます。

また、脳神経外科、循環器科においては救急隊や地域医療機関が専門医師と直接相談できるホットラインを設置しており、脳卒中、心筋梗塞

救急車応需を継続し、さらなる救急医療体制の整備を目指す

など年々増加傾向にある疾患の緊急対応を積極的に施行しており、超急性期疾患の診療にあたっております。

その他疾患・病態において、当院での対応が困難な症例もあるかもしれませんが、近隣医療機関の皆様におかれましては、入院の可否の判断を含め、一度当院へご相談・ご紹介頂ければ幸いです。

近隣消防との連携強化

これまで、救急車受入台数は月に約220台、年間約2600台となっておりますが、コロナ渦で、診療制限を設けざるを得ず、救急車受け入れ台数も減少傾向にあります。当院の救急車応需の継続・増加を目指すため、近隣消防の皆様におかれましては、MCコントロール会議や救急搬

送時の場で救急隊と定期的にコミュニケーションをはかり、これまで以上の救急医療体制の整備・構築を目指していきます。鹿行地域における二次救急指定病院として「断らない医療」の実現と医療水準向上に少しでも寄与できるよう全力を尽くす所存です。何卒よろしくお願ひ申し上げます。



【経歴】

茨城県稲敷郡美浦村出身
山形大学医学部医学科卒業
水戸済生会総合病院 初期研修・後期研修
(消化器一般外科・乳腺外科)
筑波メディカルセンター病院 救急診療科
2022年4月より現職

ピックアップドクター

Pick up Dr.

各診療科の医師が専門分野を伝える



全身麻酔による ESDも積極的に実施

胃がんは、その主な原因であるヘリコバクター・ピロリ菌の感染率の低下とともに減少していくとされていますが、高齢化の影響もありまだ横ばいの状態が続いています。さらに当院では上部消化管内視鏡検査で診断される胃がんの症例は近年も漸増傾向が続いています。

胃がんの治療として腹腔鏡手術を含む外科手術、化学療法ほかに、内視鏡手術の内視鏡的粘膜下層剥離術(Endoscopic Submucosal resection: ESD)があります。ESDの適応は早期がんの中でもさらに早期で、転移をきたさないとされる粘膜層にとどまっているがんとなります。内視鏡による手術ですので外科手術と異なり腹部を切開することなく胃がんを摘出するこ

とで治療が望めます。当院ではESDに難渋しそうな症例では、鎮静剤・鎮痛剤での静脈麻酔ではなく、手術室での全身麻酔によるESDも積極的に行っていきます。

早期発見のために 定期的な内視鏡検査を推奨

しかし、そのような早期の状態で胃がんを発見するためには定期的な検査が必要となります。吐血や腹痛などの症状がある場合はかなり進行しているケースが多く、症状がない状態での定期検査が重要になります。前述のヘリコバクター・ピロリ菌ですが、感染率は若年者では著しく低いものの、高齢者では現感染と既感染(自然除菌群を含む)を含めると半数以上が該当すると考えられます。既感染でも胃がんのリスクは無治療(現感染)に比べ

ると半減はしますがリスク群であることには変わりありません。コロナ禍による検診や一般外来の受診控えの影響が、コロナ禍前よりも進行したがんが発見される傾向があるという報告もあります。腹部症状がある方はもちろんですが、定期的な上部消化管内視鏡検査の積極的な推奨をお願いいたします。

当院では治療方針の判断が難しい症例は、消化器内科、外科、その他の診療科の医師に加え、筑波大学附属病院の教授にもリモートで参加していただき月2回のキャンサーボードにて症例検討を行っています。消化管内視鏡検査のご依頼は常に歓迎です。ESDに加え外科手術適応のがんにつきましても外科チームとのシームレスな連携で対応させていただきますので、症例がございましたらお気軽にご相談いただければ幸いです。

・消化器内科・

細谷 寿久

内視鏡科科長

切開せずに胃がんを摘出する内視鏡的粘膜下層剥離術